

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

クオリティアップを目指す全てのオーディオファンへ

総力特集 ディスク再生の進化が止まらない!

「最先端」CDプレーヤー21モデル スクランブルテスト

重点アクセサリー研究 最新13モデルの音質を探求
“攻め型”オーディオラック



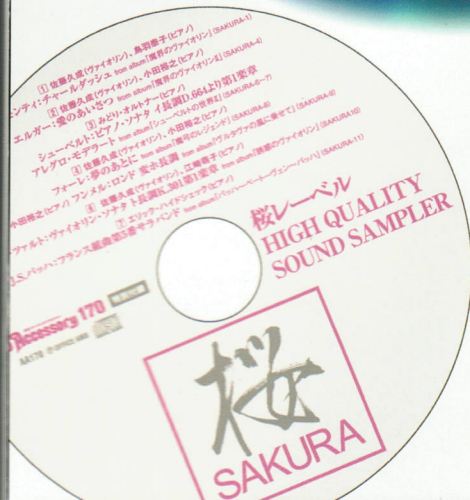
特別付録

唯一無二の演奏家を!
クラシック音楽レーベル

桜 — SAKURA

HIGH QUALITY
SOUND SAMPLER

佐藤久成他収録



Phile
web

AA誌の注目記事は
WEBでも楽しめます

2018 AUTUMN

170

注目を集めるドイツ・ハイエンドブランドの 最上位シリーズを堪能する

Text by 井上千岳 Chitake Inoue / Photo by 田代法生



ACCUSTIC ARTS AMP II-MK3

パワーアンプ
¥2,400,000 (税別)
*専用ベースはオプション
(¥100,000、税別)

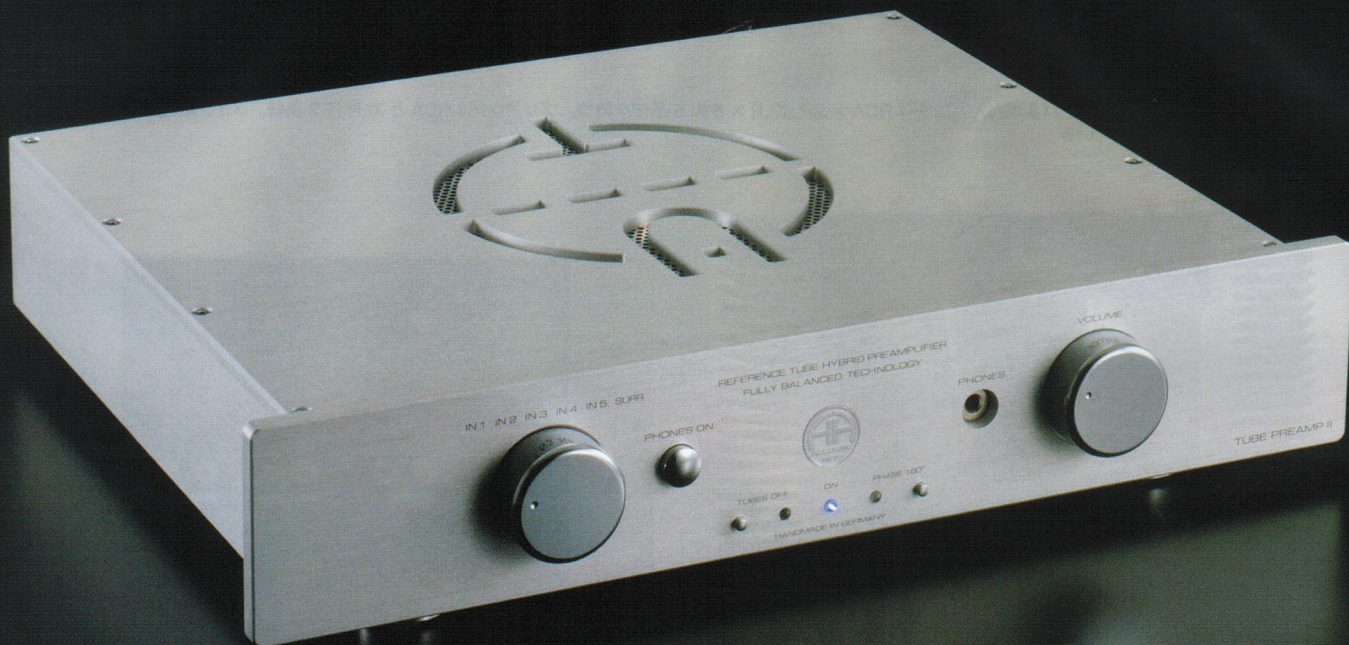
Specifications

●電圧利得：31.0dB ●電源トランス：2,200 VA (W) ●電源キャパシター：160,000 μ F ●入力インピーダンス：バランス 2 $\times$ 20k Ω , アンバランス 100k Ω ●出力 (THD+N = 0.1%)：675W / ch (2 Ω)、450W / ch (4 Ω)、275W / ch (8 Ω) ●立ち上がり、下がり時間 (方形波20kHz, 12Vpp)：3.1 μ s (4 Ω) ●クロストーク：109dB (1kHz) ●高調波歪 (THD+N)：0.001% (4 Ω , 10W) ●SN比：-103dB (ref. 6.325V) ●サイズ：482W $\times$ 350H $\times$ 430Dmm ●質量：55kg

ドイツのハイエンドブランド ACCUSTIC ARTS (アコースティック・アーツ) が注目を集めている。ここで紹介する TUBE PREAMP II -MK 2 と AMP II -MK 3 は、同ブランドの最上位シリーズである「REFERENCE SERIES」のプリアンプとステレオパワーアンプである。TUBE PREAMP II -MK 2 は真空管を用いたハイブリッド型プリアンプ。AMP II -MK 3 はダンピング・ファクターの直線化技術を取り入れ、スピーカーの最適なドライブを図るステレオパワーアンプである。ここでは、両モデルを組み合わせ、アコースティック・アーツの魅力に迫ってみたい。

TUBE PREAMP II-MK2

プリアンプ
¥1,900,000 (税別)



Specifications

●最大利得:4.0倍 / +12dB ●L&Rch信号差: 0.2dB (0dB~-40dB) ●入力インピーダンス: XLR 2×50kΩ, RCA 50kΩ ●出力インピーダンス: XLR 2×34Ω, RCA 34Ω ●内部歪:0.0065% with 4.0Veff on 10kΩ (60Hz / 7kHz 4:1) ●高調波歪 (THD+N): 0.0022% with 1.0Veff on 10kΩ (22Hz~30kHz) ●SN比: -90dB (ref.500mV / potentiometer turned to left) ●真空管:12AX7 WA, ECC83, 7025 ●サイズ:482W×100H×375Dmm ●質量:12kg ●取り扱い: (株) ハイ・ファイ・ジャパン

ヨーロッパ屈指の ソリッドステートアンプ

久しぶりにアコースティック・アーツを聴いてみたいと思う。今回はTUBE PREAMP II・MK2とAMP II・MK3というシステム。価格からも分かるように、文字通りのハイエンドである。

この価格帯になると、世界的にも数は少なくなる。あつたとしても一品生産の個人ブランドのようなケースも多く、企業として一貫した生産システムで作られるハイエンドモデルは稀少と言ってもいい。ことにアンプなどエレクトロニクスではそれが当てはまる。

何度も言うようだがアコースティック・アーツがヨーロッパ屈指のソリッドステートアンプだというのは、こういう意味も含んでいることである。

簡単に説明しておくと、TUBE PREAMP II・MK2は、独自のチューブ・ハイブリッド技術を採用したフルバランス構成。真空管はECC83で、カスコード接続のバランス入力としているため、チャンネル当たり2本使用する。また電源トランスはトロイダル型で2基搭載。ただしLR独立ではなく、真空管管とトランジスタ用である。出力は2系統で、

バイアンプ駆動も可能だ。

AMP II・MK3はデュアルモノ構成のパワーアンプで、出力はMOS FET 24個を使用して275W×2/8Ωを得ている。電源トランスもLR独立だ。そしてダンピング・ファクターを、帯域全体で最適な範囲に収められる直線化機能が新たに装備された。

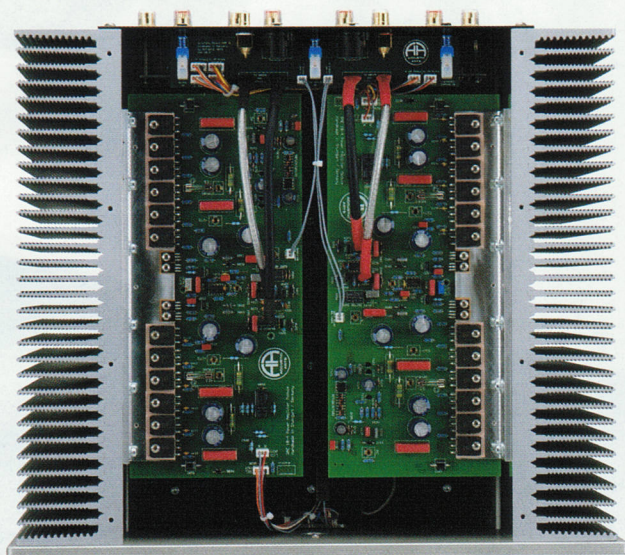
ハイエンドの中でも 別格的なグレード

最初にこの価格帯の製品は少ないと記したが、その音を聴くとハイエンドの中でもそれに相応しい別格的なグレードという気がする。音の鮮度と純度が違うのだ。よく聴くピアノのソースでも、最初から出方が別物に思える。タッチが澄み切つて余韻が豊かに乗る。そこまでは珍しくないが、その背後にもやもや揺らめくようなノイズや付帯音が出てこないのだ。音の後ろ側にも何もない。つまりS/Nが高いということなのだ。汚れがないためディテールが驚くほどきめ細かく鮮明だ。鮮度と純度と言ったのはこのことで、音楽がひと際生の感触に近づいたの分かる。

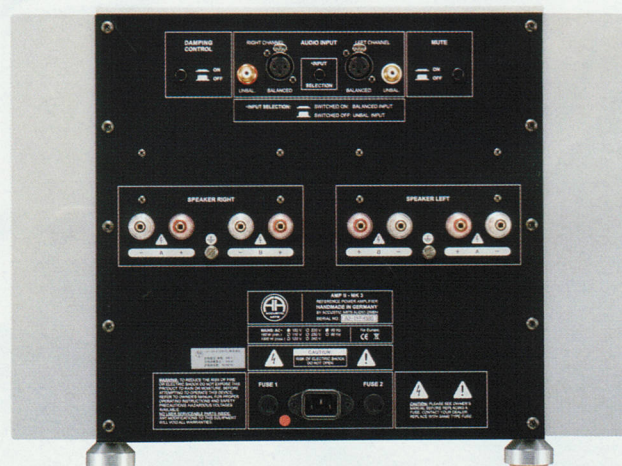
またディテールだけではなく、表現全体の起伏が大きい。それは当たり前で、ノイズフロアが下が



TUBE PREAMP II - MK2 のリアパネル。入力端子はRCA×2とXLR×3の5系統を持つ。プリアウトはRCAとXLR各2系統。メインスイッチは電源ケーブルのインレットの下に置かれている



AMP II - MK3 は内部が積層構造になっている。写真は最上段。MOS FET が片チャンネル12個、計24個用いられている。電源トランスなどはこの下に配置されている



AMP II - MK3 のリアパネル。入力端子はRCAとXLRを各1系統装備。スピーカー出力端子は2系統。左上のスイッチを入れることで、ダンピング・ファクターが直線化される

っているわけだから当然抑揚の幅も広くなるわけである。強烈なフォルテのアタックが高速の立ち上がりで炸裂する。逡巡がまったく感じられず、すばつと切ったように淀みやにじみがない。歪みが乗っていないため、どろつともたれたような響きがないのである。要するに出てくる音がどれも新鮮で汚れやほこりが付いていないのだ。同じハイエンドと言っても、ここまで音が洗い上げられて出てくることはめつたにない。明らかに一段違う存在なのである。

一音一音に息遣いのような生きた感触が乗っている

高鮮度でシャープなのはこれで確かだが、ソースによって守備範囲の広さがもつとよく分かる。例えばオーケストラではどうか。

オーケストラは楽器の数が多し。そのひとつひとつの音がきれいなものもあるんだが、それらがどれも前へ出てくる。音像が出てくるのではない。一音一音が立っているのか、息遣いのような生きた感触が乗っているのだ。それは躍動感と言っているのかもしれないが、とにかく生命力がある。比較的音量の静かな木管楽器でもそうだし、金管がフォルテで吹き鳴らしても決してうるさく感

じられない。同じように生きた手触りがあるのだ。それだけ響きもふくよかで当たりが柔かい。

弦楽器は厚い。厚ぼったいのはなく、例えば絹織物を重ねたような腰の効いたしなやかな厚みが備わっている。だから厚いが軽いのだ。ちょうどコンサート・ホールで聴くとき厚手の軽さを感じるが、それとまったく同じ手触りである。そして音楽が濃い。

ピアノもオーケストラも、たぶんアンブにとつては同じように動作しているに過ぎないのだろう。しかしその動作がニュートラルそのもので、出てくる音楽は逆に多彩なのである。それを強く感じたのが声楽アンサンブルだ。

これはバロックより前のルネッサンス時代に当たるモンテヴェルディのマドリガーレだが、その鳴り方がとにかく静かだ。静謐そのものと言っている。このためアンサンブルの一人一人が独立して聴こえてくる。そしてそれぞれの表情が、そのまま見えるようなのだ。立体的というのは、究極的にはこういうものを指すのだろう。こういう具合で久しぶりの試聴は、その次元の高さを再認識することになった。感激である。

ハイエンドブランドのノウハウを活かした高音質レーベル

Text by

井上千岳 *Chitake Inoue*

アコースティック・アーツではアコースティック・アーツ・レコードというソフトのレーベルを、2009年に立ち上げている。商業ベースのソフトではなく、音楽再生に照準を合わせたオーディオファイル向けのレーベルである。

という内容である。またCDだけでなくアナログレコードも制作されていて、女性ヴォーカルと男性ヴォーカルがそれぞれ2枚組180g重量盤で用意されている。

第一作となったのが「UNCOMPRESSED WORLD Vol. I」で、ピアノやトランペット、サクソ、弦楽四重奏などインストゥルメンタルを集めた1枚である。ケースに「再生注意」というラベルが貼ってあるように、ダイナミックレンジを圧縮していないため不用意に大音量にするとスピーカーを破損することがあるという意味である。因みに我が国でもウッドペック・レーベルで同様の注意書きを記してあるのが興味深い。

同社の社長兼営業を務めるシュテッフェン・シュンク氏は録音エンジニアで、各レーベルから提供されたソースをリマスタリングしてCD化しているようだ。詳しいデータは製品に添付されているが、どれもオーディオファイル向けらしく高品位な音質なのが実感できる。ダイナミズムが広いのもそうだが、鮮度が高くディテールの彫りが深いのだ。それは同社のアンブと深く通じるもので、こういう音で聴いてほしいのだという設計者のメッセージのように思う。

現在Vol. I、Vまでリリースされているが、Vol. IIが女性ヴォーカル、Vol. IIIが男性ヴォーカル、あと順にピアノ、サクソ

もうひとつ面白いのがアナログで、これはまたCDとは違う音の良さを持つている。当たりがよく、デジタル音源からアナログ化されたとは思えない質の高さが印象的である。ぜひ一聴をお勧めしたい。

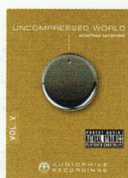
動作がニュートラルそのものなので出てくる音楽は逆に多彩なのである



「LP-UNCOMPRESSED WORLD Vol. III」
¥11,000 (2枚組、税別)
男性ヴォーカル集 (UNCOMPRESSED WORLD Vol. III と同内容)



「LP-UNCOMPRESSED WORLD Vol. II」
¥11,000 (2枚組、税別)
女性ヴォーカル集 (UNCOMPRESSED WORLD Vol. II と同内容)



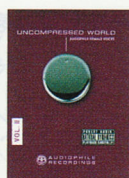
「UNCOMPRESSED WORLD Vol. V」
¥8,000 (税別)
サクソフォン集



「UNCOMPRESSED WORLD Vol. IV」
¥8,000 (税別)
ピアノソロ集



「UNCOMPRESSED WORLD Vol. III」
¥8,000 (税別)
男性ヴォーカル集



「UNCOMPRESSED WORLD Vol. II」
¥8,000 (税別)
女性ヴォーカル集



「UNCOMPRESSED WORLD Vol. I」
¥8,000 (税別)
ピアノ、トランペット、サクソフォン、クラリネット、ギター、弦楽四重奏等のインストゥルメンタル集



Finest Music Components
Handmade in Germany



--- 1997年に発表され、アコースティックアーツの顔であるAMP IIに、定ダンピング・ファクター・テクノロジーを搭載し、AMP II - MK3として、生まれ変わりました。

Reference Series

AMP II - MK3 Premium dual-mono amplifier ¥2,400,000
TUBE PREAMP II - MK2 Premium tube hybrid preamplifier ¥1,900,000
TUBE DAC II - MK3 Premium tube hybrid DA converter ¥1,900,000
DRIVE II Premium CD transport ¥1,900,000
TUBE PHONO II Premium tube hybrid phono preamplifier ¥1,900,000

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233
www.accusticarts.com / www.hifijapan.co.jp